

これからが楽しみです

寿地区 加藤 哲也さん



私は4年前に脱サラし、昨年新規就農致しました。研修にあたり、農事組合法人の小赤宮農さんに里親としてお世話になり、農業を一緒に教えて頂きました。この経験が今の私にはかけがえのないものになっています。自分は農業に、どのようなスタンスで取り組み、どのような地域と関わっていくのかという方向性が決まってきました。

農業は天候に左右され、販売価格も安く、儲からないということがよく言われますが、私はどうしても儲かる仕組みができるかを常に考えています。結果として、り

んご及びその他の果樹を中心とし、野菜を織り交ぜていくこととしました。まだこの仕組みについては試行錯誤中で、これから少しずつ進化していければと考えています。

そんな私が新興塾の9期生としてスタートしました。農業は孤独になりがちですが、将来にも付き合える信頼のできる仲間作りと、地域の農業への貢献が少しでもできればいいと考えました。まだ始まったばかりですが、年齢も20代から40代まで、栽培品目も、販売方法も、人それぞれで参考になることばかりで、これからが楽しみです。

新興塾は会社組織ではありませんが、会社員の時の経験やノウハウを発揮できればいいと思います。色々なメンバーで、ワイワイガヤガヤと切磋琢磨しあっていくことが農業を一層楽しくさせると期待しています。

がんばっています

～第9期新興塾生の抱負～

山辺地区の担い手について

入山辺地区 田村 貴子さん

夫の故郷ここ松本に移り住み7年になります。松本は四季折々の景色が素晴らしく、沖繩生まれの私にはとても魅力的な所です。

我が家は曾祖父の代からぶどう農家で、既に高齢の両親は木を徐々に減らしていました。そんなところへ貸していた別のぶどう園が返却されたのが3年前。それを機に、ぶどう栽培を引き継ぐ決心をしました。古くから高品質なぶどう産地だということも知り、大事に守って行かなければと思っております。

しかし、一人での作業は判らない事ばかりで、近くで作業している大先輩を見つけては教わる毎日です。

ぶどう栽培は、真冬の剪定から始まり秋の収穫・出荷と、予想以上に大変で、やれば遣るほどに難しく頭を悩ませていきます。毎年、山辺のぶどうは甘く

て美味しいと楽しみにしてくださる方も多く、励みになっています。

今後は効率的な作業ができるように、十分なノウハウを身につけて、毎年安定した数量確保に、更なる甘くておいしいぶどうが収穫できるよう、そして新しい品種も少しずつ取り入れながら、頑張っていきたいと思えます。

この山辺地区の抱える後継者不足や遊休農地解消につながることであればと思っております。

